

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	生態系ダイナミズムに着目した物質探索法	研究代表者名	上村 大輔
-------	---------------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア(×) 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
天然物化学は日本が伝統的に強い分野であり、その中心的研究グループによる生理活性天然物探索法の開発研究は引き続き推進する必要性は高い。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ(×) 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
困難であったカモノハシの毒の採取にも成功し、共生現象や寄生現象あるいは食物連鎖ダイナミズムなどに着目した新物質の単離同定にも成功しており、予定どおり進展している。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ(×) 組 織
- エ() そ の 他

意見：
生物活性を評価する専門家を加えるともっと広範囲のアッセイが可能になるのではなかろうか。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア(×) 期待以上の成果をあげている
- イ() 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
新規分子の探索法、生物活性メカニズムを調べる手法など確実に成果を挙げており、今後の発展がさらに期待される。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア (×) 有機的に連携が保たれている

イ () あまり有機的に連携が保たれていない

ウ () その他

意見：
他大学の分担者もいるが、よく連携が保たれている。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見：
初年度に「海洋生物飼育試験システム」を導入し研究効率の向上を図るなど、効果的に使用されている。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
×	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

長い伝統を生かして、世界中でここでしか出来ない高度で特色ある研究を推進している。寄生や共生などの生態系ダイナミズムに着目した新しい生物活性天然物化合物の探索法を確立しつつある。研究は順調に進展しており、終了時には大きな成果が期待される。日本の強い分野をさらに強くすべく、引き続き支援すべき課題である。